PURE/THAI 発
発刊 103 号 2019年 8月 8日 発行　　発行者　寛庵 泰
EXCITING/Thailand News
Relaxation/Place（ くつろぎのいおり ）
422/33 Soi 7 Chiangmailand T.Changklan A.Muang Chiang Mai ThaiLand〒50100 Mob：081-205-0689 e-mail：h2.kanang@gmail.com

無尽蔵の需要 があれば

とても、供給が間に合わなくなる。と、同時に急激なインフレ状態に陥り、バブルが膨らみだす。逆に供給過多で需要が冷え込んでは、デフレ状態に陥る。景気が不況なのに物価が上がる！という、スタグフレーションという経済状態も日本は経験している。無数の失敗経験を積み重ねつつも、場当たり的、その場しのぎ、なし崩し的に対処して来た。

誰がどう考えても、デフレ下での増税は有り得ないし、あってはならない事なのに、5%～8%の消費増税を決断し、「周りの者達に騙された！失敗だった！」と悔やみながら、今回は10%にするといって憚らない二枚舌に加え、「今後10年間は消費増税をする必要がない…」等と、全く無責任な発言が出ては、安倍首相は、単なる経済音痴ではなく、傀儡グローバリストだ。
以前から、アベノミクスはアベコベノミックスと、揶揄し続けて来たが、『その正体を見たり！』の観が強い。云ってる事とやってる事が真逆の人を精神分裂というが、詭弁と太鼓持ちの、話法と技法だけで渡って来た浮世の風は、いつまでも順風満帆とはいかない。
あまつさえ、最優先課題が憲法改正であり、拉致被害者の救出だと公言しつつ、やる気配も素振りも見せなくなって来ては、ワースト宰相の座を固め、確実なものにするだけだ。

バンコクエアーでバンコクへ

路線バスは昔のまま

『チェンマイにいらっしゃい！PR誌』であるはずのミニコミ誌ののっけから、現政権批判から始まって表題の『無尽蔵の需要…』とどう結びつけるのか？苦慮する処ではありますが、歴史や元号の転換点には、ひと波乱があるのが通例だと見れば世界情勢・日本の状況・チェンマイにいらっしゃいと、無尽蔵の需要が不思議な位に融合することが分かります。

同じ能天気（バカ）でも、私の場合イケイケドンドン！のインフレ脳（思考）ですから、失敗も人一倍多く、満身創痍の心と身体を癒せる環境が必須になるのも当然です。『成功は、氷山の一角』の話は、何度かしましたが、水面下の失敗経験が大きいほど、成功のボリュームも大きいものです。「…何々？そんなに儲かっているのかって？…」ゲスの勘ぐりは止めましょう。カネ儲けのために始めた事業ではない事は何度も述べています。（バブルに浮かれていた1980年代に、今の少子高齢化をイメージし、対応策（受け皿）を個人レベルで事業化しようと計画したものです。）

個々に描く老後のあるべき姿は、多様であって然るべきですが、切実な課題は、健康で元気に過ごすには、何処でどの様に過ごすか？過ごせているかと云う事です。
この課題に関しては、『チェンマイ暮らしは大成功だった！』と云えるでしょう。だからと云って、誰でもが『大成功』の旨酒をタダ飲みすることができるかと言えば、そうは問屋が卸しません。

懐かしのバイヨーク

『…試飲ぐらいなら…』『**2019年/七人の侍 Chiang Mai Conference**』に参加して下さい。
何はともあれ、最大の資本はカネよりも、健康・元気な心身。ダメなものはダメ！良いものは積極的に取り入れる。自分のバカさ加減が災いして失ったものは、取り戻す。実に単純明快な正論を実践せよというのが、仏教で云うところの七仏通誡偈にある諸悪莫作・衆善奉行・自浄其意・そのものだと理解し、納得頂けるでしょう。

路線バスの切符10฿

すべからくは、実践なくしては見返りはない（ただの空論）で、不健康・病気・貧乏将来不安・貧窮状態を抱えた状態から、脱却することはできないと云うことです。
自分ひとりで悩んでいても解決できない、これらの状態からの脱却をしたいというニーズ（必要性）やウォンツ（欲求）は、現代社会において無尽蔵にあるはずです。

今、世界各国で起こっている様々な混乱の大本も、Topに立つ人間のバカさ加減で推し量れるように、一個人の抱える問題の根本も、自分自身のバカさ加減がもたらしたものであると受け容れられるかどうかに掛っている。
散々ぱら人をバカにしつつ、自分のバカさ加減が分かっていない者が多すぎる。
「 何を他人事のように云っているんだ！それは、おまえだ！ 」と、喝破されれば「 その通りでございます 」と、ひれ伏すしかない。

現状からの脱却、明るい未来、豊かさを実感したい需要は、潜在需要を含め無尽蔵にある。
これをいかに採掘するかだ。自分自身は、大して役に立たないけれど、少しくらいは人のためになり、役にたつ事をして、喜んで頂ければ十分幸せという作業が、採掘作業だと考えます。

https://www.youtube.com/watch?v=whGh-Xscvhw　米中貿易戦争の本質-1
https://www.youtube.com/watch?v=Mmk4q_hTPBI　アベノミクスが中国を救う！？

潜在需要は路傍の石　供給能力 とは

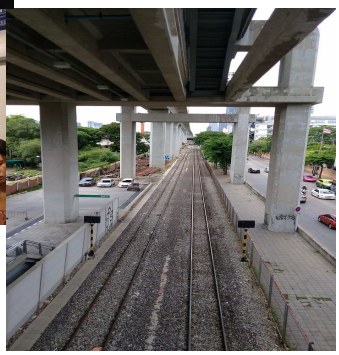
『路傍の石』と聞いて、直ぐにダイヤモンド畑の話を思い出すのはかなり営業センスの良い方です。誰でもが見過ごしてしまう身近な人の中に、磨かれざるダイヤモンドの原石がゴロゴロと転がっているという事でもあります。この原石は見つけ出されて磨かれたいと想っているのに、誰にも見つけられず、磨かれず路傍の石になっているのです。

6～7年ぶりか、8年ぶりか忘れたが、6月末にバンコクに行って来た。主な目的はPure/Thaiの実質オーナーであるアナン先生との面談で、現状報告と年内・若しくは来年5月の賃貸契約満期までに店の営業を一旦閉店する話だった。先生との親交は40年余りになるが、私が最も尊敬する人でもある。（恩人や尊敬する人、同意・賛同する人など多くの人に恵まれてもいる）

同意・賛同する人の中で、前号の『今月のお薦め本』に取り上げた藤井　聡氏がいる。この人のファンでもあって、お薦め本にした以上買って読もうと思いバンコクの日本語取り扱い書店（紀伊国屋・東京堂書店）にならい、新刊本が入荷されているだろうと思って伊勢丹の5階・エンポリアム3階の各書店に行って来た（これが2番目の目的）が、残念ながら売っていなかった。仕方なくバンコクで発行されている日本語のフリーペーパー情報誌を掻き集め（3番目の目的）て来た。丁度昼食時間だったので、『らあめん亭』で、しょうゆラーメンと餃子を食べた（4番目の目的）が、日本の味と値段は同じだとは聞いていたが、現地価格感覚では、3000円もするラーメン餃子を食べた。（旨い事は美味かったが、2度と行くことはないだろう）物価感覚として、バンコク／チェンマイでは、2倍～3倍くらい違う事も分かった。（5番目の目的）

You Tube 動画で、藤井聡氏の本音が語られていたので是非ご覧下さい。（絶賛！）
https://www.youtube.com/watch?v=mAcLhYrAXcQ　　藤井聡の本音トーク

交通渋滞も昔のまま



↑らあめん亭入り口
↑ARL車内風景
→ARLは高架線で、下は旧路線で貨物専用のよう

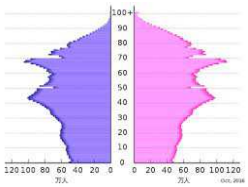
主な目的を除いた各目的が何であるかは推察の通り、市場調査だった。公共交通機関の料金は変っていないものの、経済成長と共に人件費が上がった分だけ物価はそれ以上に上がっている。言い換えれば、東京首都圏周辺の人件費が高い分だけ物価も高いのと同じだ。（豊かさが享受できない構造が出来上がっている）

従って、景況感は必ずしも良好とは感じられない。スワンナブームから市内に直行するARL（エアポート・レール・リンク）・BTS（高架鉄道）の車内では、殆どの人がスマホに見入っている。LineやFB大好きタイ人だから、納得いくが、喫茶店や食堂などでも、友人・恋人と思しき二人連れもお互いに話をするでもなく、スマホに専念している。

恐らくは、日本の若者達も同様の光景を展開しているのではないだろうか？携帯もスマホもコミュニケーションツールだったはずだが、二人の間を裂くツールになって来ている事を、誰も意識していないようだ。

先進国化の現象として、タイも急速に少子高齢化が心配されて来ている。労働力は近隣国のミャンマーやベトナムから補充しているようだが、少子高齢化の波は止まらない。高齢化社会に必要なものは労働力だけではない。

先進国の中で、少子高齢化現象の最先端を走っているのが日本である事は異論を挟まない。この事は、40年前（1980年代）から分かっていたのに、その頃日本は、団塊世代（生産労働人口）と団塊二世の誕生で、人口増に加え、生産性向上運動（ QC/品質管理・ZD/無欠点 ）が企業内で盛んに叫ばれ、日本の製品は国際競争力を持った一流品として市場で飛ぶように売れた。インフレ現象がもたらす好景気から、イケイケドンドン！で、将来不安など考える人も企業もなく、バブル景気に拍車をかけていた。



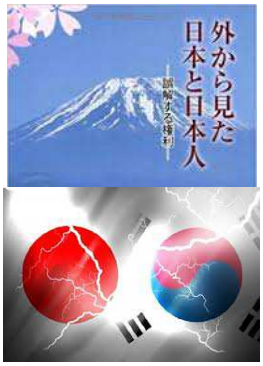
雲行きがおかしくなり始めたのが、1973年11月のオイルショック（トイレットペーパー買占め）パニックからだったが、その後の世界情勢の変化・変動によって日本経済は、翻弄され続けて来て現在に至っているのは周知の通りだが、日本人の悪しき気質である『喉もと過ぎれば…』で、『平和ボケ』に加えて『一億総健忘症』が持病にもなっている。

インフレもデフレもスタッグフレーションも、景気も不景気も、全て需給関係で左右される事は誰でもが知っている。国民の需要が凍土のごとく冷え固まっている状態がデフレ社会で、貧困化社会が蔓延しているのに、大手企業だけは内部留保資金を貯め込み、自社株買いに走っている。政権・政府も、デフレ経済政策しか打ち出していない。これを嘆いているだけでは、問題はひとつも解決しない。

（個人・国民）の夢の実現は、（他人・国民）の期待に応えることによってのみ実現するものだという事が、供給能力の極みだということを心に刻んでおこう。

バランス感覚　夢／期待・借り方／貸し方

本誌の主旨は、それこそ耳にタコができるくらい何度も繰り返していますが、『チェンマイにいらっしゃい！』ですが、ただ来れば良い、行けば良いというものではなく、目的と必要性をもって来て頂きたいという事です。日頃、または現職時代、目一杯仕事に励まれ、心身ともに疲弊された方に、リラクゼーションの真髄である癒しとくつろぎを目的



として、来て頂きたいと云う主旨で書き綴っています。従って、当然のように溜まったストレスを発散するかのように、外から観た日本の現状（政治・経済・社会）批判も述べさせて頂いていますし、言い放しではなく、（出来ないと知りつつも）あるべき姿の日本も述べて来ました。

『反日無罪・親日有罪』を標榜して憚らない、事大主義の国に対して、今のまま、今までのままで良いと思っていない日本国民が80%以上いる事が、実に喜ばしい結果だったと受け止め、心強く想っています。今回の韓国向けの半導体関連輸出3品目の規制と、『 ホワイト国 』からの除外検討措置で明らかになった事は、なし崩し、なあなあ！で来た慣習を一掃し、反日は致命傷を負うぞ！と云う具体的な事例として、歴史に刻まれる快挙だと評価しています。
勿論、ポチ政権の一存でやった事でないのは明確でしょうが、今後は更に、反日国家に通ずる米国の仮想敵国に対する対応も、従来通りには行かなくなるだろう事も、想像に難くない。

2本目の矢が抜けた間抜け政策

前章巻末に記載した、『（個人・国民）の夢の実現は、（他人・国民）の期待に応えることによってのみ、実現するものだという事が、供給能力の極みだ』と、云うのに通じる事象でもあった。Pure/Thai も、Kanang も、基本的な営業・経営スタンスはこれで、お客様の期待に如何に応えられるか、個々に持つ夢を如何にして具現化できるようにするか、供給者のスキル（能力）が問われる処だと考えています。

多かれ少なかれ、教育に関心のない人は居ないでしょう。学校教育だけが教育の場ではなく、職場教育・社会教育・宗教教育・など、様々な場で教育が施されている。人間は考える葦である（パスカル）と共に、洗脳（マインドコントロール）されやすい存在でもある。素朴で、素直な人ほど洗脳され易いのは、対義語で分かる。洗練・老練・がそれに当る。練は、訓練の練であって、九九の暗誦のように、繰り返し繰り返し練習を積み重ねて、脳裏に刻み込む（こねくり）作業だから、刻み込まれたものは、正しいと思い込むようになる。（予告：次号1＋1≠2をお楽しみに！）

忌まわしいWGIPによる『日本の敗戦史観教育による洗脳』から覚めやらない人たちまでもが、今回の韓国の対応にNo！ と応えている姿は、明るい日本の兆しを感じる。
それでも、日本の純朴で、素朴・素直な日本人は、財務省の云う「1,000兆円を超える日本の借金！（国民一人当たり800万円を超える借金）」を真に受けて『増税やむなし』と思っている。

そもそも論で云えば、大蔵省から財務省に名称・組織変更しても、財務諸表を、世界常識の複式簿記ではなく、単式簿記（小遣い帳・家計簿）で遣っている処に問題の根源がある。
借り方・貸し方の貸借対照表と、損益計算書を公表すれば、日本の経済状態が一目瞭然！
だから公表せず、PB目標など、経済成長を阻害する数字を元に財政出動を抑制している。
異端の経済評論家として、財務省から忌み嫌われている三橋貴明氏が、藤井聡氏らと共に、MMT（現代貨幣理論）の提唱者であるニューヨーク州立大のステファニー・ケルトン教授を招き、2019年7月16日、『MMT国際シンポジウム』が開かれた。多数の国会議員やマスメディアが注目した。（YouTube にアップされたらご覧下さい）　先ずは、三橋氏とのインタビューを。

S/ケルトン教授

https://www.youtube.com/watch?v=1GmSBTFKeKo　MMTと日本経済の謎

今月のお薦め本

複式簿記だの借り方・貸し方だの云っても、中々ピンと来なくても、三橋氏の曰く、
「**財政赤字は国民の黒字、国の借金は貨幣発行残高の記録にすぎない**」と
理解すれば、政府がすべき喫緊の急務は、財政赤字の積み上げでしかない事が容易に分かる。MMTの肝は正にこの事だ。国民を豊にしないで、どうするんだ！

財政赤字＝悪。赤字は黒字転換させなければならないという庶民感覚では、誰でもが騙されてしまう脅し文句を使って、国民を萎縮させ、増税を強要し、誘導するプロパガンダを垂れ流しているのが、日本の財務省の実態でもある。

経済学も、経営学も、時代の変化に左右される変化学だと云ったことがあります。
不確実な人間が運営するものですから、尚更に、アンバランスに変化し続けます。
人間の健康や気力も、環境や食事などで簡単に、バランスを崩してしまいます。

これら、総合的なバランス調整をどのように図るか、特に高齢期に入った人達は、長年に渡ってアンバランスな生活をして来た付けが回って来ていませんか？。
さあ！どうしたら良いのでしょうか？何からはじめますか？

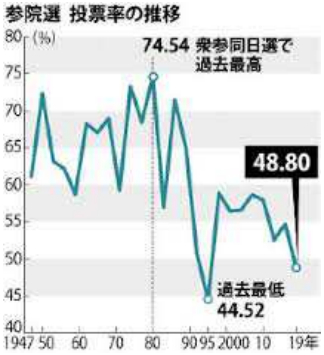
バランス感覚 を取り戻す Chiang Mai Conference

貸借対照表の事を、バランスシートと呼ぶことは周知の通りで、会社も国も、左右は必ず同額で、±0が正解。相撲の取り組みに置き換えた例えがありますが、全員勝ち越しは有り得ない。この中で、白星（利益）の方が多かった力士が（企業や国が、勝組企業であり国）だということで、その貴重な白星をどう活かすかが、力士の力量！

濡れ手に粟で、バブルで儲けた利益は、正に悪銭身に付かずと同じで、バブル崩壊と同時に瞬時に失ってしまうという教訓を、日本は1970年～80年代に経験した。
インフレを極端に懸念する体質は、2001年大蔵省が財務省に名称変更され、金融庁が分離された事から始まったようです、（以下参考文献参照）

濡れ手に粟…

https://38news.jp/economy/133　大蔵省から「財務省」に転換した時、平成デフレーションは決定づけられた　レポーター　藤井　聡　氏



参議院選挙が終わり、結果をどうご覧になっておられるでしょうか？敢えて結果を評論したいとは思っていません。日本に限らず何処の国でも、選挙結果は国民の意思の表明だから、その後どのようになるかを注目したいと思っています。

誰でもが、今後どうあって欲しい、どうあるべきだと思っていて、その思いを一票に託すのが選挙ですから、当選した候補者は、期待に応えなければならない重責を担う事になって、万歳処ではないだろうと冷めた目で眺めています。落選した候補者も、リベンジを狙うなら、冷や飯を喰いながら次の機会に備える行動をとられるでしょう。共に注目すべきは、これからの行動です。そういう意味で、常々云っている『 終わり即次の始まり 』の典型例が選挙でもあるという観点です。

バランス感覚の事を、日本語では平衡感覚と云いますが、最近では平衡感覚は書き言葉に成りつつあるのかなと、感じています。散々ぱら、アンバランスな食生活を送り、偏執質な性格と考え方を改めない生活習慣を送って来た張本人が、今更「 バランス感覚を取り戻す！」と云っても、笑止千万！と鼻で笑われてしまいそうですが、アンバランスだからこそ、全てに於いてバランスの重要性が身にしみて理解できるというものです。そうではないですか？ご同輩！

見廻せば、自分だけじゃない！アンバランスを包含している同輩ばかりだと気付くでしょう。だから、足元には路傍の石がゴロゴロと転がっていて、それらが実はダイヤモンドの原石だという訳です。この原石をどのように磨き上げるか、諸兄の知恵と年輪にモノを言わせる時です。だからと云って、「あなたは、アンバランス人間ですか」「どこか具合が悪い所がありますか」なんて聞く訳にもいかない。「お元気そうで何よりですね…」から、同輩相憐れむストーリーが始まります。この時、商品を売り込みたいという下心があったのでは、結果売れません。

ピンボケはNo！

売れるか売れないかは、共感（共通の利益）が得られたか、得られなかったかの結果ですから、売れなかったという事は、相手に充分な利益が提供できなかったという事になります。相手が欲しいものはその商品だけではなく、それを買う事によって得られるであろう利益が、イメージできたかどうかにかかっています。

以前、何回も云って来た事ですが、売れないセールスマンは、その商品のメリットばかりクドクドと説明する習性を身に付けているから売れないのです。ピンポイントで問題解決を図る方法（買って、使ってみる）しかないのに、ピンボケな説明や話が多くて、顧客にしてみれば「良く分かったが、自分にはあまり興味関心がない」という結論を出さざるを得ない状態にさせているわけです。

路傍の石の磨き方、ダイヤモンドや宝石の仕上げ方以前に、一番大切な心構えがあります。賢明な読者諸兄はお分かりの通り、路傍の石に見えるタダの石コロが、実はダイヤモンドや宝石の原石かも知れない、一丁磨いてみるか！というアクティブなチャレンジ精神の下、行動を起こすことです。仮に、タダの石コロだったら、投げ捨てれば良いだけのことで、無駄でも損でもありません。見極めが出来た分だけ得したことになります。
無駄働きで得する方法まで身に付けたら、最強セールスマンに一歩近づきます。

石コロとダイヤの原石

儲ける事、得することばかり考えていても、ちっとも儲からないし、得しないのは「無駄働きで得する方法を身に付けていないからだ！」と断言してもいいでしょう。言い換えれば、無駄働きの多さと儲けの多さがバランスをとるとも云えます。無駄働きもせず、何もしないでゴロゴロしていては、タダの石コロのお仲間に甘んじるしかなくて当然です。

と、云う事で、Pure/Thaiはマッサージ店・ステイルームを閉店しても、軸足はチェンマイに置いて、継続的に日本との関わりを深化させて行きます。物販部門の『**七人の侍プロジェクト**』を立ち上げ、当初事業計画の『 **くつろぎのいおり デベロップメント** 』の実現を目指します。